

平成25年度第1回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成25年7月25日(木)
 - 2 開催場所 市役所5階第2、第3委員会室
 - 3 会議時間 午後4時～午後4時50分
 - 4 出席委員 大引巻代、仕切義宣、嶋尾正人、能登谷久公、姫野貞夫、森本太郎、屋敷夕貴、鶴瀬初弘、北野直人(中 隆明委員代理)、山田勝之、小堀正夫、嵩尾憲昭、釣賀節子、池永フミ子、山本弘子 計15名
 - 5 欠席委員 川上 修、佐々木一郎、田中英雄 計3名
 - 6 市出席者 本川祐治郎(市長)、棚瀬佳明(副市長)、前辻秋男(教育長)、高橋正明(企画振興部長)、濱井博文(総務部長)、宮本秀夫(市民部長)、定塚信敏(建設農林部長)、池田士壽男(防災・危機管理監)、福嶋雅範(能越自動車道対策室長)、林克己(教育次長)、加野陽子(教育次長)、堂尻繁(消防長)、藤澤一興(企画政策課長)、大門芳宏(総務課長)、桶元勝範(財務課長)ほか
 - 7 傍聴者 市議会議員1名
 - 8 案 件 (1) 配布資料の説明
(2) 質疑応答、意見交換
- <協議資料>
- 資料1 氷見市集中改革プランⅡ(実施計画【平成25年度版】)
 - 資料2 資料 【別冊】プランⅡの目標を達成するための具体的な取組
- 9 会議録

発 言 内 容

総務課長

ただ今から、平成25年度氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。委員の皆様には、お忙しいところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

はじめに、市長よりご挨拶を申し上げます。

本川市長

皆様、本日は何かとご多用のところ、この会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

皆様方には、日頃から氷見市政の発展にご尽力を賜りまして、心から感謝申し上げます。

現在、氷見市におきましては、今後、数十年の氷見市の礎となります、さまざまな整備を進めております。この市庁舎の移転の問題、あるいは、旧海鮮館の活用のごこと、庁舎跡地や旧市民病院跡地の利活用、また、昨日からスタートいたしました、氷見インターチェンジから市街地までの新しい玄関口となります、この風景のデザイン、分かり易く申しますと、乱開発への対応など、緊急ではないが重要なことに対して、十分な施策を巡らせながら、未来価値を高める氷見市政の実現ということを大いに推進しているところでございます。

市庁舎の移転につきましては、来春、旧有磯高校に移転することになっておりますが、現在、「お年寄りの方にもやさしい総合案内」、語り合おう氷見ですので、「市民の皆様と一緒に政策をつくるための協働スペース」、あるいは、「氷見らしさを表現できる庁舎」など、誰もが利用しやすい共感のもてる庁舎となるように、ワークショップを開催しながら、先般も市民の皆様はその状況公開をして、一緒にアイデアや意見を出し合いながら、使い方についての議論を進めているところでございます。

次回のワークショップは、9月1日に開催をいたしておりますので、また、こうしたお金をかけずに、新庁舎をつくるということのご様子をごらんいただきがてら、ぜひご参加いただきまして、さらなる有用なご提案をうかがうことができると考えておりますので、また、お越しいただけますよう、よろしく願いいたします。

また、本日より、仏生寺地区におきまして、協働のまちづくりの協議会が立ち上がってまいりますし、氷見市の未来についての議論ということを「ハードからソフト、ソフトからハード」へという理念のもと行っております。

私も市長に就任いたしまして、たとえば橋が1本3億円とか、道路が1キロ10億円とか、こういう現実と直面をしながら、しかし、一方で未来に通じる重要な交流のハードであるということも念頭におきながら、ハード、ソフトそしてハードのバランスの良い予算配分、本当に生きた未来投資ということについて、今、職員とともに、いろいろと議論しているところでございます。

また、一方で、これらの事業を実施するためには、財源を捻出することも極めて重要でございまして、これまでも皆様方のご意見を賜りながら行財政改革に継続して取り組み、この両方のバランスを

進めてきたところであります。

本日も説明させていただきます、集中改革プランⅡ「平成25年度実施計画」は、平成21年度に策定をいたしました基本計画に基づき、毎年度策定することとされております。

内容といたしましては、最新の財政収支見通しなどを掲載しております。

ここまで、15年間、しっかりと運営をしてこられた堂故前市長の苦心の跡が伺えておりまして、順調に、この行政改革については推移していることと思っております。

この集中改革プランⅡ5カ年度の最終2年間の場所にさしかかっているかと思っておりますが、市民の委員の皆様には、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思いますと思っておりますので、本日も慎重、審議を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、本当にありがとうございます。

総務課長

それでは、本題の協議事項に入ります前に、新しい委員の皆様を事務局の方でご紹介させていただきます。

お手許の名簿順にご紹介いたします。まず、公益代表委員として、老人クラブ連合会会長の能登谷様です。次に、民間企業経営者等代表委員として、氷見市金融協会会長の鶴瀬様です。次に、労働者関係団体代表委員として、連合富山高岡地域協議会氷見地区協議会議長の山田様です。また、公募委員としまして、池永さんにご参加をいただいております。また、本日、連合富山高岡地域協議会氷見地区協議会副議長の代理として北野様にご出席をいただいております。なお、川上委員、佐々木委員、田中委員につきましては、本日欠席となっております。

次に、会長の選出であります。本懇話会におきましては、これまで自治振興委員連合会の会長をお願いしておりますので、今年度も自治振興委員連合会の会長をお願いしてはどうかと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

(出席委員全員拍手)

ありがとうございました。

それでは、仕切様には、会長席にお着きいただき、議事進行をお願いしたいと思います。仕切様、よろしく願いいたします。

会長

仕切でございます。今ほど、ご指名をいただき大変恐縮しております。非常に重要な懇話会でございますので、説明の方もしっかりと、そして、後の質疑の方もしっかりとしていきたいと思っております。一生懸命務めますのでよろしくお願いいたします。

それでは、最初に副会長であります。会長の指名ということになっておりまして、連合婦人会会長の屋敷さんをお願いしたいと思います。屋敷さん、よろしく願いいたします。こちらの席にお移りください。

それでは、協議案件に入りたいと思っておりますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要点を委員名を伏せ

て公表したいと思っておりますのでご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。

議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いしたいと思います。

それでは、協議資料を一括して、事務局に説明をお願いいたします。

総務課長

(協議資料の説明)

会長

ありがとうございました。お手元の資料に基づき説明をいただいたわけではありますが、数字の羅列でありまして、一回説明を受けてすぐに理解するのは難しいと思っておりますが、今の説明に対する、ご意見、ご提言等がございましたら、お伺いしたいと思います。どなたからでも、ご発言をお願いします。

委員

よく頑張っていることは数字をみて理解できました。市税の収入のところで、生産年齢人口が3,000人減っている。総人口も減っている中で、税収が増えたのはなぜですか。

総務部長

税収の中には、固定資産税、市民税、市たばこ税、法人市民税等があるわけですが、人口による影響を受けるのは市民税であり、影響をほとんど受けないのが固定資産税であります。この固定資産税により税収を確保しております。ただ、全体的には少しずつ減ってきています。

委員

職員の削減に伴う事務事業の見直しについて、外部委託を含め、どのように考えているか。

総務課長

事務事業の見直しについては、外部委託できる部分は委託し、定例的な事務については、正規職員の代替えとして臨時職員、嘱託職員を配置する工夫をしております。

会長

他にありませんか。それでは、〇〇さん、何か、ご質問ありませんでしょうか。

委員

保育士の子供に対する比率について、適正人員の考え方を説明いただけないでしょうか。

総務部長

氷見市の保育所につきましては、平成17年9月に策定しました氷見市公立保育所民営化等実行計画により、それまでは、ほとんどが公立であった保育所の民営化を順次推進してきました。その結果、かつて17園あった公立の保育所が、現在では8園になっております。一方で、民間の保育所では、規模を大きくすることのほか、早朝保育、延長保育、休日保育等を行う運営をしていただいております。民間へのシフトを進めております。保育士の配置基準につきまして

は、公立、民間、関係なく基準に沿った配置を行っております。

会長 他にありませんか。それでは、〇〇さん、何か、ご質問ありませんでしょうか。

委員 商工業の関係で、どのくらいの予算を組んでいますか。

総務部長 平成25年6月補正段階での予算額になりますが、商工費が10億6700万円であります。一般会計が201億9900万円ありますので、5%程度になります。

会長 よろしいでしょうか。他にありませんか。
それでは、私のほうからお聞きいたします。企業立地助成金が減額になっておりますが、これは、企業を誘致することが少なかったという解釈になるわけでしょうか。

企画振興部長 企業誘致そのものは成立しておりますが、雇用要件が助成の条件を満たしていなかったことにより、今回の減額になっております。

委員 先程、説明にありましたように民間の保育所では、早朝保育や延長保育を行っているので、自宅から離れていても、そちらを利用せざるをえないという話を耳にします。公立の保育所であっても、早朝保育や延長保育を行えるように民間と協力するなど、創意工夫をしていただけないでしょうか。

市民部長 8園ある公立保育所のうち上伊勢保育園と新町保育園の2園では、早朝保育、延長保育を実施しております。残りの6園につきましては、今後、保育士の人数等の関係もございしますが、創意工夫することで可能であるかを研究、検討させていただきたいと思えます。

委員 資料の2ページに財政調整基金からの繰入金で4億4100万円と書いてありますが、残りはどれくらいあるのでしょうか。

総務部長 4億4100万円は、6月補正におきまして、市民病院の跡地を一般会計により購入する際に充当したものです。6月補正後の予算ベースで考えますと、平成25年度末までの残高は20億1000万円を見込んでおります。

委員 この市民懇話会議と直接関係ないのかもしれませんが、氷見市の人口が7月に5万人を割ったということを知りました。氷見市の将来を考えると、人口が減るということは、学校が無くなったり、地域が過疎化していったりと本当にどうしようもないことなのか。人口の減少に歯止めをかけることが、とても大事なことはないのでしょうか。当然、企業の誘致も必要ですし、若い人には、子供を

生みやすい環境を整えることが必要だと思います。学童保育の指導員をしている中で、一人親家庭のお母さんから市営住宅になかなか入居できないとの相談を受けたのですが、どうでしょうか。

建設農林部長

家賃が低額な市営住宅については、満室で入居を少し待っていただいている状態です。少し家賃が高い特定公共賃貸住宅については、現在、12室中半分が空いている状態で、県のほうからも家賃を下げて満室にするようにとの話がありますので、今後、検討していきたいと考えております。

委員

先程の一人親家庭のお母さんの話の続きになりますが、結局、家賃が低額な市営住宅には入居が難しいので、高岡市に引っ越そうかと思っていますということでした。私は、若い人たちが、氷見市に定住できる環境を作っていける、きめ細かな行政運営が必要であると考えます。

会長

市長、これに対して何か思いがありましたらお願いします。

市長

はい。ありがとうございます。

暖かい無駄遣いという良いフレーズをいただきました。

市民の皆さんから、そういうお声が上がれば上がる程、市長としては動きやすくなりますので、しっかりやっていきたいと思っております。現在、結果を出している市町村の調査を実施するよう指示を出しております。例えばですが、高知県のある村では定住施策として、空き家の内装を自由に変えていいという一条項を付け加えただけで、50名、100名の問い合わせを受けるという結果を出しております。氷見市にも空き家バンクという制度がありますが、やや形骸化していたという実情があります。こういう所で、少し変えるだけで人が来たりすることがあります。私の友人がコーディネーターをしていました九州の津屋崎というところで、3年間で80人の移住を成功させています。こちらでは、複数の業（複業）を行うことで生計を立てています。こういうことも支援していこうと考えています。

先般、非常に良い話を聞きました。今、現在の小学生たちが50年後、今、見たことのない職業に3分の2の人が就いているというレポートが出たそうです。私の前職もファシリテーターという見たことも聞いたこともない仕事です。作業療法士や福祉の仕事も50年前には、あまり想定できなかった仕事です。これからは、人々のお役に立つような仕事を手探りで模索しながら生業として作っていく時代に向かっていくと思っています。そういうことのチャレンジが十分にできる資源が氷見にはあって、そういうことを意識的にやっていく感性豊かな人がいると思います。移住の先輩方が、この暮らしに価値があるということ伝えていくことをシステム化している市もありますので、こういう感覚で着実に人を増やしていくということをやりたいと思います。最後になりますけれど、

人口はこの50年の間に1億2000万人から8000万人に4000万人が減ります。いたずらに、こういうことに抗うよりも着実に良質な市民を増やしながら、暮らしの質をいかに担保していくかに目を向けていこうとすることが、街づくりはハードからソフト、ソフトからハートへということです。まずは、女良地域から市長の対話集会を始めました。今度は、八代に行きます。そして、今日は仏生寺で協議会が立ち上がります。過疎の進んでいる地域との対話の中に、暮らしの質を維持していこうとする深い議論が出始めていますので、ここに地域担当職員が、どのように入り込んでコミュニティを成り立たせていくか、こういうことに全職員も目を向けてくれるようになりましたので、総合的に確かな事例を頼りにした実感のある市政に丁寧に取り組んでいきたいと思っております。中間の報告でございます。

会長

どうも、ありがとうございました。

発言も一通り出たようでございますので、このあたりで懇話会を終了させていただきたいと思っております。ご苦労様でした。